

前かがみ…ゴム伸縮でサポート

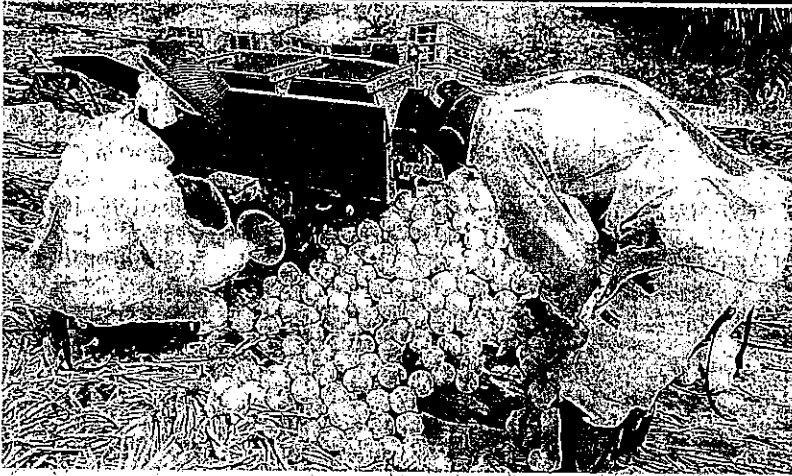
農作業



腰痛軽減

リュックサックのように背負って前かがみになると、ゴムの伸び縮みで腰への負担が軽くなる器具を、従業員47人の名古屋千種区の「旭ゴム化工」が商品化する。同社のゴムは伸縮性と耐久性に優れ、自動車や船の部品として出荷しており、その技術を活用した。来春の発売を予定し、前かがみの作業で腰痛に悩まされる農家が待ち望んでいる。

【中村幸和、写真も】



腰痛軽減の器具をつけてタマネギを収穫する農家—愛知県大府市で

千種区の中小企業 生き残りかけ商品化へ

長さ50センチのプラスチックのフレームを背負い、ひざ下からかかとを包むサポーターを装着する。フレームとサポーターはゴムで結ばれ、前かがみになるとゴムが伸びる。この際、地面に向かおうとする力とフレームを引っ張る力が作用し、体を起こす筋肉の働きを補助する。

研究者が開発した腰痛軽減器具が07年に紹介され、腰への負担が2、3割減るとの実験結果だった。同社は製品化に向けて改良を重ね、装着時間を2、3分と短くし、2、3センチの器具を800名まで軽量化した。

最初は介護や看護の職場で試したが、車椅子を押ししたり、狭い場所を動き回ったりすることが多く、「わずらわしい」との声が出て

実用化を見送った。ところが農家で試すと、前かがみになる収穫作業や収穫した農産物の「カー」に出荷され、車も多いが、腰痛で悩む農家を減らしたい」と話している。価格は2万5000円に設定する見込み。

拒が減ると実感できの海外進出と音聲の現た。ずっと腰痛でつら地調達で、受注はこかったので朗報」と喜10年で約2割減り、ゴぶ。一方、6カ月前がム製のダンベルやストら試している同所の農レッチ器具などの新商家、山口貴也さん(40)品も開発してきた。重は「歩き回ると動きに本鶴男商品企画室長はくく、夏につけると暑一生き残るためには新しい商品を作るしかない」と課題を挙げる。しい商品を作るしかない。販路開拓など課題も多いが、腰痛で悩む農家を減らしたい」と話している。価格は2万5000円に設定する見込み。